

小倉南ケアセンター 和が家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		運営理念「御高齢者が地域でいつまでもなごやかに安心して暮らす為に必要な社会福祉事業」としている。又、グループホームの基本方針も作りあげている。 運営理念に近づく事が出来る様に目に付く場所に理念を貼り、常に確認を行っていききたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		運営理念を毎朝の申し送り時に唱和し全員が共有実践していくようにしている。 理念の唱和を続け、皆の考えとなる様に指導していききたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営理念を玄関ホールに掲示している。又ご家族様へ、お便りの発送や2ヶ月に1度会議への参加をお願いし、理解していただくようにしている。 地域の方々への理解はまだ低い為、理解が得られる様に進んで町内行事等に参加する様に努力する。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域のお祭りや行事に参加し、又気軽に声をかけていただいている。町内会へ入会して回覧板が届いたり届けたりと、つき合いが広がっている。 地域の行事への参加を活発にしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事の参加や町内会へ入会したりと活動に参加している。 地域との関わりをこれからも増やしていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々との取り組みはまだ十分に行えていない。		努力していく課題であり、役立つ事を考え話し合う機会を作っていくようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が意見を出している。評価後は報告を行い改善すべき点は積極的に行っている。		外部評価後は注意する点について職員全員で問題点を改善するよう話し合い行っていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議において報告を行い、御家族からの意見を充分に聞き入れて反映出来る様にしている。		御家族様や地域の方々より意見をいただき、今以上のサービスの向上をしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者を中心に近隣のグループホーム同士で築き上げたネットワークを活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		担当者の異動に依り、事業所同士の集まりは無くなったが、ネットワークは活かされているので今後も相談等で活用し、幅広く交流し、サービスの質の向上に役立てたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度について相談がある時には説明を行い、パンフレットを用意している。又、関連の外部研修にも参加し、研修内容を報告、職員への啓発を行っている。		成年後見制度について、今後も理解を深め利用者や家族が活用出来る様に支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の合同カンファレンスにおいて拘束の現状や虐待について話し合い防止に努めている。		今後も虐待防止について関心を持ち、虐待を見逃さない環境作りに努める。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所時には契約書や重要事項説明書で十分な説明を行い御理解していただき、又疑問や不安も伺っている。		現在の状況を続け御理解をいただき疑問等に対しては状況に応じて対応、常に納得していただける環境を提供する。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見や不満、苦情等が報告された時には、日々の申し送り時等で職員は責任者へ報告し、改善できるように努力している。		利用者様の声を十分聞くように言葉以外の方法も使い、コミュニケーションをとって運営に反映させたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	生活の様子や健康状態は往診後、電話連絡を行ったり、金銭管理については毎月の請求書等でそれぞれに報告。職員の異動は運営推進会議や面会時に報告している。		御家族様への連絡は常時行い、各々にあわせた報告方法を確実に実施する。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御家族様の苦情や意見は報告書を作り、全職員へ伝達し、又運営推進会議でも報告し、改善策への足がかりとし運営に反映させている。		運営推進会議や面会時及び電話連絡時に気軽に相談していただける様な雰囲気作りを心掛けている。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に一度のカンファレンスの時等、意見や提案を聞く機会を作り、又個々に面談を行う事もあり意見が伝わるようにしている。		今後も意見交換の機会を作り運営に反映するよう努力していく。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	変化に対応出来る様に勤務調整を行い、行事に依っては増員する等柔軟な対応をしている。		職員の人員の確保に努め対応できる様に努める。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動は最小限に行われ離職も少なくなるように努力し、利用者様へのダメージを防ぐようにしている。		ユニット間での応援勤務を実施するなどして、利用者との馴染みの環境作りを行い、離職時等にダメージを防ぐ配慮をしている。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用については、性別・年齢・経験の有無等を理由に採用対象からはずすことのないようにしている。様々な担当業務をローテーションで担当し、能力が發揮できるようにしている。又勤務時間等の希望を聞き入れシフト作成をしている。</p>		<p>職員の苦手意識を改善しつつ、個々の能力を十分に引き出していけるような職場環境をつくっていきたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権マニュアルや接遇マニュアル等を作成し、それを用いて研修を行っている。又、外部研修にも参加し、啓発活動に取り組んでいる。</p>		<p>カンファレンスや勉強会を通して人権や接遇の教育を強化し、今後も人権尊重を重視する様に努力する。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新しい職員は新人研修を実施、現職員と共に行動、指導に取り組んでいる。又、外部への研修にも参加、報告書を作成、資料を回覧している。</p>		<p>個々の職員に合わせたペースで指導を行い、又能力に応じて様々な研修への参加を促してトレーニングしていく。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業者との交流会、外部の研修等を通じて意見・情報交換を行っている。</p>		<p>定期的な交流会は実施していないが、今後は積極的な情報交換や交流の機会を作る様に努力していく。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス・悩み等は各ユニットの主任、ホーム長への相談、又は個別の面談を行っており、解決策はセンター長を含め見出している。</p>		<p>話しやすい人間関係や環境を作り解決していきたい。</p>

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの能力や努力を理解し、向上心を持って働ける環境となるよう努めている。又、認知症研修に於いては職員の希望を聞き入れ、課題として取り扱っている。		向上心が継続するよう、これからも良い環境を作っていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前に本人様と面談を行い、体験入所中には多くの関わりを持ち、十分に話を聴く機会を作っている。		入所後も御本人より十分な話を聞く機会を多くもつよう傾聴の姿勢を大切にしていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	見学の時に家族の希望や悩みを聞き、相談については十分な対応ができるよう話し合いをもつようにしている。		家族との連絡を十分に取り、想いや希望を受けとめるようにしていきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者の話を聞き、何を必要としているのか、どのような対応ができるか考え取り組むようにしている。		引き続き必要としている支援を見極め両者の希望に沿う事ができるよう努力する。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の今までの生活を把握した上で、ホームでの生活になじめるよう支援し、又、家族様とも十分に話し合い必要な品物等を用意していただいている。		御本人様のペースに合わせ、興味のある事・得意な事を把握し、意欲的に過ごせるように援助していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の個性を理解し、多くの会話をする事で喜怒哀楽を共に出来る様努めており、「人生の先輩」である利用者から学ぶ事も多く有る事を理解している。		今現在の関係を継続する事で職員が多くの事を学ぶようにしていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時には多くの会話を持ち、近況や身体状況等、詳細に報告し、家族と喜怒哀楽を共に出来る様な環境作りに努めている。		御家族様と職員が気軽に声をかけられるような関係を築いていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会はいつでも可能で、御家族様との楽しい時間を過ごせるようにし、フロアや居室にてゆっくりと過ごしていただける様にしている。		御家族様と利用者様とのより良い関係が築いていけるよう支援していく。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は難しい状況になりつつあるが、人との関係は本人様の記憶を大切に支援に努めている。		大切にしてきた事を継続できるように支援していきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を理解し、時には職員が間に入り良い関係を保てるようにしている。		こまやかな配慮を行い利用者様同士の信頼関係が築けるように支援している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方やその御家族様との連絡を取りあっている。又、定期的に電話連絡を入れ入院先への御見舞いや死亡された方との連絡も取り合っており、契約終了後も継続的な関わりを続けている。		入院の為退所されてもお見舞いに行かせていただいたり、連絡が取り合える様にしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で利用者様の希望を聞き、職員で話し合い対応できるようにしている。又、御家族様へも協力をしていただいている。		意志の伝達が難しい方には、様々な形で意見を汲み取るように心がけ、本人様主体になるよう努めていく。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は御家族様、又は本人様より情報をいただきいつでも確認できるようにファイルしている。新しい情報はその都度職員間で周知出来る様にしている。		今後も十分な情報収集を行い把握に努めたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活日誌や健康日誌によって一人一人の体調や行動等を記録して情報を職員間で共有し、把握に努めている。		利用者様の体調変化や言動・行動の変化に対して常に敏感になる事が出来る様に努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様や御家族様の要望を聞きアセスメントを取った後に、カンファレンス時職員で十分に話し合い、意見を反映した介護計画を作成している。		職員全員で意見を出し、本人様主体の介護計画を作成している。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間をもうけているが、その時の状態の変化に応じて随時見直しを行いより良い計画を作成している。		体調不良や入院等により本人様の状態変化に応じたケアプランを作成し、少しでも利用者様本位になるように努力する。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は生活日誌や健康管理シートに記録し様々な出来事がすぐに把握できる状況であり、情報の共有を充分に行っている。		記録は充分行っているが、職員個々の把握に差が生じない様周知徹底に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本事業所のデイサービスとの交流や、フロアを使用しての行事を実施している。		交流の機会を多く持つようにし、今以上のサービスを行っていききたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	様々な機関に協力を呼びかけている。民生委員やボランティアの活用、離苑時の警察や交通機関への協力、消防署の消防訓練やAEDの使用法講習等を実施し協力しながら支援している。		今後も継続して協力を呼びかけ、地域資源の活用に努めたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービスの利用は行っていない。		地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との関わりはあるが、具体的に提供するまでにいたっていない。これから関係を深めていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者との連絡は常に行われている。		今以上の関わりを増やしていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度かかりつけ医の往診があり、体調管理が行われている。又、本人様や家族様の希望を伝え十分な医療を受けられるようにしており、他科の往診や緊急搬送先も確保出来ている。		今後もかかりつけ医との十分な関係を継続し適切な医療提供ができるように努力したい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症のもの忘れ外来も行っており、診断や治療を十分に行えるようになっている。		今後も勉強会等を実施していただき、積極的に参加していきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師とは毎日連絡を取り気軽に相談し、意見をもらっている。又、かかりつけ医の看護師とも十分にコミュニケーションが取れている。		今後も看護師との連携を深めていくよう努力する。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後は医師や看護師との連絡を取り合い、又職員が面会し、状況の確認をすると共に早期退院の為に十分な情報が交換できる様に地域連携室とも連携を密にしている。		スタッフが可能な限り面会をし今後のケアについても話し合いを行っていく。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期には、御家族様と十分話し合いを行い希望など色々な情報を繰り返し状況に応じて話し合い、職員へ伝達し、全員で方針を共有している。		ターミナルケアに際しては本人、家族、全職員との十分な協議を行い、又医師との連携も図っていく。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様の重度化や終末期については全職員で考え話し合い、どのような支援を行うのか、又、かかりつけ医と相談・連携を取りながら様々な状況への準備をしている。		今後も常に話し合いを行いチームケアで支援ができる様に、かかりつけ医との連携を図って、又、アドバイスも受けながら行っていく。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	詳しい生活歴等を聞き、十分な情報交換を本人・家族・職員と行っている。		住み替えが発生する場合には各関係者と十分に話し合い、本人のダメージを防ぐように努力したい。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護には十分に配慮し、声掛けも研修やマニュアルに添った対応が出来る様心掛けています。又、個人情報の取り扱いも慎重に行っている。		個人の尊厳を守り、プライバシーの保護には気をつける。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人様の希望を聞き、活動への参加の意志を確認。又、わかりやすく説明を行っている。		利用者様全員の把握に努めたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務本位とらず利用者様一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう支援する事を心がけている。		現在の状況で一人ひとりのペースの確保に努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1～2ヶ月に一度、訪問の理美容を実施している。おしゃれ着等の衣類は家族に相談し、持参してもらっている。		身だしなみやおしゃれは本人様の希望をもっと聞いて行っていきたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等と一緒に協力しながら行っており、職員は食事を介助を交えて共に会話しながら摂っている。		一人ひとりの好みや力を活かしながらこのまま継続していききたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等は家族様より差し入れ等があり楽しんでいただいている。		一人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう支援していききたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し、失禁等が少なくなる様に声かけや誘導を行い支援している。		その時々合った対応を行い、不安のない排泄支援を行っていききたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけを行い意思の確認をして入浴していただいている。体調不良を除きほぼ全員の方が隔日にて入浴を楽しんでいただいている。		一人ひとりのタイミングやペースを大切にして入浴を行っていききたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの体調やその時々状況に応じて休息や入眠を支援している。		生活ペースを把握し安眠できる環境を整えていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しずつでも一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけ支援をしている。		毎日変化の少ない生活を送られている方もおり、気晴らしの支援は不足しているので行えるよう努力していきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり保管している。ただし少額の金額を持つ事で安心できる方は家族様との話し合いで御本人が自己管理されている。		現在、買い物へ出かける事ができていない。今後は機会を増やしていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体状況によって外出する事が難しい状況もあり、一人ひとりの希望に沿っての外出は支援できていない。		家族様との連携も含めて外出ができるように考えていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	夏祭りやお花見等は機会を作って支援しており、外食等は家族との連携に依り、徐々に機会をつくり支援している。		家族様との連携で外出の機会が増えるように考えていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や文章を書く事が難しく、ほとんどの方ができず支援できていない。本人自ら電話をかける事を希望する方もいない。		年賀状等、職員が付き添い書ける様に支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの方々の面会には、挨拶・笑顔を中心に気持ち良く迎えられる様にしている。		家族様に安心していただけるように笑顔を心がけていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスにおいて、身体拘束について話し合っている。現在安全確保の為、家族様同意の上でベッドに2点柵を使用している方がおられる。		今後も常に対策を考え、身体拘束のないケアに取り組んでいきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	それぞれの居室の鍵はかけていない。ただしグループホームは2階にあり、ホーム前の交通量も多い事から安全の為玄関には鍵をかけている。		鍵をかけない努力をしていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	できるかぎりのプライバシーに配慮を行いながら安全の為、夜間一時間毎の巡視を実施し記録を残し、様子の把握に努めている。		安全確保の為、さりげない見守りや声かけを十分に行っていく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等危険なものはきちんと管理し、利用者様それぞれの持ち物を把握、危険な物は預かるようにしている。		台所の包丁等はカバーを付け箱に入れ冷蔵庫の上等、手の届かない所に保管している。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の行動を把握し、事故防止に取り組んでいる。		いつどのような形で事故が発生するかわからない為、十分な知識を得る事ができる勉強会等を行っていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに添って事故防止に取り組んでいる。又、内部研修で応急手当や急変時の対応について勉強している。		繰り返し行い確実なものにしてきたいが、まだ十分な状況ではない為努力していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的避難訓練を行っている。地域の人々の協力を得られるかは不安があるが町内の定例会等で積極的に働きかけている。		地域との関わりを多く持ち、協力が得られる様にしていきたい。特に夜間の避難については不安がある。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様の状況を把握し、家族様と常にリスクを話し合いながら対応策を考えている。		家族様との話し合いで充分なリスク管理を行ってきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定を行い異変を感じた際には職員間に申し送り、又、かかりつけ医への連絡、指示を受けている。		小さな変化を見のがさない様にし、利用者様の様子を常に観察、又、記録に残して情報を共有していく。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や医師の指示について健康管理シートへ記入。毎週薬チェック表がそれぞれに渡され目を通し理解に努めている。		薬について理解を深めるようそれぞれ努力していく。又、二重三重のチェックを行いミスの無い様支援していく。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量の不足に気をくばり、排泄パターンを把握。栄養士に食事管理をしてもらい、便通の良い食物を多く取り入れている。		朝の体操で体を動かしていただき、自然の排便に工夫していく。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施。自身で出来ない方は職員が支援を行っている。義歯に関しては市販の義歯洗浄剤を使用している。		訪問歯科との連携を図り、口腔管理、状態把握を行い、清潔保持出来る様に支援していく。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を確認、記録している。又、食事は毎食チェックしている。栄養バランスは栄養士に依り十分に管理されている。		食事量の調整を行い体重の増加のチェックを週に一度して管理を続けていきたい。又、水分摂取量の少ない方は声かけを常に行い様々な工夫で摂取していただいている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は利用者様と職員共に行っている。又、感染症についてはマニュアルを作成、それにそった予防・対応を実施している。		施設内に入る時、そしてグループホームフロアに入った時にうがい・手洗いを実行している。又、来所された方々への声かけも行き、していただいている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や台所で使用するタオルは毎日消毒を行い、日替わりで台所周りの掃除をし、チェック表を作成している。		衛生管理の徹底を行い、安心して安全な食事が提供できるよう努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外部からの来所にはインターフォンでの確認を行い、安全の確保を行っている。玄関や建物周囲は植物を植えて明るい雰囲気を作っている。		歩道より少し奥に玄関がある為、気軽に入ってこれるには難しい所である。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はいつでも気持ち良く使用して頂ける様清潔、安心に気を配っている。フロアや廊下などには季節の飾り物や外出時の写真等居心地良く過ごせるようにしている。		利用者様に飾り物の作成に参加して頂き過ごしやすい空間作りを一緒に行っていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファや椅子・テーブルを置き、それぞれ思い思いに自由に楽しい時間が過ごせるように工夫している。		共有空間の場で居心地の良い空間をこれからも作っていきよう努めていく。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様の思い出の品や使い慣れた物を置き、それぞれの好みで居心地の良い空間が作られている。		居室内に危険な物がないか、清潔にされているか、又利用者様と一緒に居心地の良い空間を作っていくよう努めていく。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にエアコンが設置され温度管理がされている。又、朝の掃除の際には換気を十分に行い、湿度は加湿器を使用している。		十分な換気を行い湿度や温度の調整を行っていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等建物内には手すりを設置している。利用者様にはそれぞれの身体の機能を活かし、安全に生活が送れるように援助している。		残存機能を生かし、安全で自立した生活が送れるように援助していきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	困惑されている利用者様にはさりげなく声かけをしわかりやすい表示をして、混乱や失敗を防ぐよう援助している。		利用者様一人一人が理解できる様な環境を作り、わかる力を活かせる様に工夫する。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲は自然が残され、天気の良い日等はベランダで体操をされたり、お茶を飲んだり、風景を見て過ごしたりと楽しい時間を過ごされている。		外出が難しい状況がある為、外の空気を感じていただけるようベランダを活用していきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

小倉南ケアセンター 和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様のADL低下にともない外出レク等が以前に比べ難しくなっています。

かし、毎日の学習レクや生活レク、地域との交流を図る夏祭りや敬老会、クリスマス会等できる限りの様々なレクレーション又イベントを催し、家族様にも参加していただいています。

又、健康管理や安全面には気を配り努力しています。

利用者様がなごやかで安心して暮らす為に職員一同努力していきたいと考えます。